

授業作りの手引き

(一) 意義

現代文の授業でグループで授業作り（レジュメ作成＋発表）をすることを通して、読むことが深まり、汎用的な力が身につきます。さらに、『こころ』という作品自体の読みを深めたうえで、作者や作品に関する他の作品など資料を読み比べる記述問題を解くことで、作品の解釈を深めることができます。

- ・ **読むことを深めるために、授業作り（レジュメ作成＋発表）＋記述問題に取り組みます。**
指定された章における登場人物の心情や情景描写の意味を考えるうえで、推測や思いつきや個人が現在持っている表現力に頼った授業作りをするのではなく、作品全体から読み取り、本文から根拠を持って授業作りをするため、読むことが深められます。
つまり、レジュメや記述問題を書くことが目的ではなく、これらを書くことによって読むことを深めるのが目的です。

《身に着く資質・能力》

- ・ **内容の解釈や自分の考えを深める力、
様々な資料を読み比べて関連を考える力、
本文に書いていないことを資料から読み取って補完する力が身に付きます。**

（学習指導要領 文学国語 読むこと・オ）

授業作りは、登場人物の心情や情景描写や作品背景、文章の構造を意識しながら、本文から、人間関係や行動から見える人物の気持ちをしっかりと読み取り、該当する章以外からも読み取りを進める必要があります。また、授業作りの後に、作者や作品に関する他の作品などの資料を読み比べる記述問題を解くことで、作品の解釈を深めることができます。

よって、内容の解釈や自分の考えを深める力、様々な資料を読み比べて関連を考える力、本文に書いていないことを資料から読み取って補完する力が身に付きます。

- ・ **表現力が身に付きます。**
本文から読み取ったことを生かしたうえで、登場人物の複雑な人間関係や心理描写を踏まえて、わかりやすい授業を作るためには、どうやってわかりやすく伝えるのか考え、表現を工夫する必要があります。

(二)レジュメの書き方

レジュメと当日の発表内容で、章の目標が達成できるようにしましょう。
次の、四つの構成要素のそれぞれがわかるように書きましょう。

①章の目標を達成するための自由掲載欄

- ・発表時間が限られているので、章の目標が達成される授業の補助としてレジュメを上手く活用しましょう。
- ・使い方は自由です。
- ・*レジュメ以外に、当日クラスに資料を配布したい場合は前日までに依頼してください。

②指定の問いに対する解答と根拠(思考の道筋)

- ・指定の問いは、一つの章につき、二〜三題設定されています。
- ・夏休みの予習課題20番〜28番も組み込んであります。
- ・(教科書掲載以外の問いは、各自の本文理解のための問いのため、授業で取り扱いません。)
- ・解答と根拠を必ず掲載しましょう。
- ・様々な可能性があり、解答が一つに絞り切れない問題もあります。
- ・その場合、班員でそれぞれの思考の道筋を意見交換してみてください。

③オリジナルの問いと、それに対する解答と、根拠(思考の道筋)

- ・指定された章で疑問に思った問いを班で一つ取り上げましょう。
- ・それに対する解答と、根拠も必ず掲載しましょう。
- ・オリジナルの問いは、一問一答のようなすぐわかる、浅い問いではなく、クラスの生徒の思考力を使わずような、深い問いを作ってください。

④指定の語彙

- ・指定の語彙は、教科書の脚注の左下にあるものです。
- ・意味調べを掲載してください。
- ・指定の語彙以外にも、クラスの生徒に注意を促したいものなど掲載してください。

《レジュメ作りのべからず集》

- (1)期限を守らないレジュメ作りはするべからず。
13班まとめて印刷し、冊子にします。1つの班の遅れが、クラスの授業や考査に影響しますので、指定された期限は厳守してください。
- (2)雑な字・薄い字で書き、皆が読みにくいレジュメにはするべからず。
レジュメはそのまま印刷します。ボールペンで丁寧記入してください。データで打ち込んで、提出したい班は申し出てください。
- (3)誤字脱字のあるレジュメにはするべからず。
班員でよく確認して提出してください。

(三) レジユメの提出スケジュール

- ・皆さんはご自分を教育実習生とみなし、指導教官(教科担当)から許可がおり次第、清書提出へと進んでください。
- ・次の授業まで2週間近くあきますので、その間は**班ごとの個別対応のやりとり**としたいと思います。
- ・**レジユメに対するコメントを添付して、②④の引き取り日までに田原BOXに戻っておきますので、担当者が引き取りにきてください。**
- ・基本的に、**2回の提出日を設けますので、改善したものを田原BOXにいらしてください。**ただし、許可がおりれば、その段階で③の下書き提出はしなくてよいので、③④をとばして、⑤清書に進んでください。

◎レジユメ提出先…田原BOX(4階国語科教材室前の台形の白い箱)

＊ただし、田原自身は3階進路室にいます

①レジユメ下書き1回目の提出…本日、九月九日(月)午後1時まで

提出担当者…Aさん・A2さん

②レジユメ下書き1回目の引き取り…九月十日(火)

引き取り担当者…Bさん

③レジユメ下書き2回目の提出 …九月十二日(土)午後四時

提出担当者…Cさん

④レジユメ下書き2回目の引き取り…九月十七日(火)

引き取り担当者…Aさん・A1さん

⑤レジユメ清書提出締め切り日…九月十九日(木)午前九時厳守

提出担当者…Bさん

◎グループ発表…九月二十日(金)・二十七日(金)・三十日(月)

授業作りの評価は(1)ループリック評価によるレジユメの評価と(2)ループリック評価による授業発表の評価の二つから評価します。

(1)ループリック評価によるレジユメの評価

《ループリックによる評価の手順》

手順① 左記の表を見て、評価の観点ごとに、脚本がどのレベルに該当するのか評価します。該当する欄に直接○印をつけましょう。

手順② 全ての観点を自己評価したら、合計点をだします。

レベル1を一点、レベル2を二点、レベル3を三点として採点し、最高点を九点、最低点を三点とします。ループリック表の下の方欄に書き入れましょう。

	四つの構成要素	思考の道筋の明瞭性と章の目標の達成	体裁
3	四つの構成要素のうち、 <u>4つすべて</u> 満たしている。	人物の心情や情景描写について、 <u>担当</u> する章だけでなく、 <u>作品全体から読みとったこと</u> を関連づけ、読みとりを進めている。思考の道筋も明瞭で、章の目標が <u>すべて</u> 達成された内容だ。	誤字脱字やねじれの無い推敲された文章になっている。
2	四つの構成要素のうち、 <u>3つ</u> 満たしている。	人物の心情や情景描写について、 <u>担当</u> する章から読みとりを進め、思考の道筋も明瞭である。章の目標が <u>1つ</u> 達成された内容だ。	いくつか誤字脱字やねじれのある文など文法上の間違いはあるが、ほぼ正確に書けている。
1	四つの構成要素のうち、 <u>2つ以下</u> を満たしている。	担当する章から解釈しているが、章の目標は達成していない。思考の道筋が不明瞭である。	誤字脱字や文法上の間違いが多い。判別しにくい字があり、判断しにくい。

四つの構成要素	+	思考の道筋の明瞭性と章の目標の達成	+	体裁	=	合計
点／		点／		点／		点／

(2) ルーブリック評価による授業発表の評価

≪ルーブリックによる評価の手順≫

手順① 左記の表を見て、評価の観点ごとに、脚本がどのレベルに該当するのか評価します。該当する欄に直接○印をつけましょう。

手順② 全ての観点を自己評価したら、合計点をだします。
 レベル1を一点、レベル2を二点、レベル3を三点として採点し、最高点を九点、最低点を三点とします。ルーブリック表の下の空欄に書き入れましょう

	内容	表現の工夫	チームワーク
3	意見交換のもと、 <u>深い読みや根拠（思考の道筋）</u> がなされており、章の目標がすべて達成された内容だ。全体構成もしっかりとしている。	スライドや模造紙の活用や漫画や演技など、 <u>わかりやすく伝えるための＋α</u> の表現の工夫がある。そのため聞き手とのコミュニケーションが取れており、相互啓発の空間が構成されている。	内容構成、資料作成、発表の各場面で <u>チームワーク</u> がよく発揮されている。 <u>メンバーの個性</u> が見える発表である。
2	グループで意見交換して考えたことが、構成よく整理されて伝えられている。章の目標が <u>1つ</u> 達成された内容だ。	＋αの表現の工夫はないが、資料作成、役割分担、明瞭な発声、主張点の明確化、時間管理などの点で優れている。	内容構成、資料作成、発表の各場面でチームワークがよく発揮されている。
1	発表内容に深い読みや根拠（思考の道筋）のある説明がなされていないために、表面的な内容で終わっている。章の目標は達成していない。	＋αの表現の工夫はなく、発言やレジユメの記述等にも明瞭性や根拠が十分にみられない。	内容構成、資料作成、発表の各場面でチームワークが十分に発揮されていない。

内容

点／

+

表現の工夫

点／

+

チームワーク

点／

=

合計

点／